

複合価値の創出に向けて



クロステック開発部 部長

ひらまつ よしあき
平松 孝朗

今年ドコモが1992年7月1日にNTTから分社し営業を開始してからちょうど30周年を迎える節目の年となりました。分社当時から今日に至るまでドコモはパートナーの皆様とともに多くの「新しいコミュニケーション文化の世界を創造」してきました。アナログ方式による第1世代ネットワークにおいて自動車電話サービスからスタートした移動通信も、2020年3月には第5世代ネットワーク「5G」の商用サービスを開始し、消費者向け情報サービスからビジネスソリューションに至るまで、毎日の生活に無くてはならない生活インフラへと発展しました。それと同時に、今後の社会の持続的発展に向けて、我々が担う社会的責務も格段に重くなっており、コロナ禍以降、さらに激しく変化する社会環境の中、多様化・複雑化する課題を的確にとらえ、タイムリーにそして持続的に新たな付加価値を創出し続けることがますます重要になってきていると感じています。

このような環境の中でドコモR&Dでは、これから先、1人ひとりが輝き、寄り添いながら、あらゆる可能性が広がっていく、より豊かでより持続的な社会“Wellbeing Society”の実現を、ビジョンとして掲げています。この“Wellbeing Society”の実現に向けた取組みとして、「イノベーション共創基盤」の開発と「ライフスタイル共創ラボ」による実証があります。

イノベーション共創基盤は、ドコモが研究開発を行っているAIやIoTなどの技術とNTT研究所の技術アセットをさまざまな産業分野で活用可能とする基盤です。各技術アセットとサービスデリバリーにかかわる機能・システムを疎結合とすることで、産業分野横断での基盤技術活

用を容易にするとともに、スピーディなサービス展開を狙っています。

そしてライフスタイル共創ラボは、“Wellbeing Society”の実現に向け、生活者の視点から新たなライフスタイルの創出を目指す取組み領域を5つ定め、パートナーの皆様とともにイノベーション共創基盤を活用して創出する新たな価値について検証を進める取組みとなります。ライフスタイル共創ラボを通じた検証を繰り返し実施することで、イノベーション共創基盤に実装された各技術アセットを磨き続け、持続的に発展する付加価値の創出を目指しています。昨年下半年以降、8プロジェクト10案件の取組みが進められています [1]。

私自身、これらの取組みを推進していく上で、特に挑戦したいと考えていることが「複合価値」の創出です。イノベーション共創基盤上の技術アセットを各産業分野に提供していくということに加え、各技術アセットを組み合わせた複合価値、もしくは事業領域を組み合わせた複合価値を検討することにより、新たな付加価値の創出に繋げていけるのではと考えているからです。その際に重要となるのは、やはりお客様視点での検討であると考えています。これまでも多くのビジネス検討において、お客様視点に立った検討が実践されてきていますが、事業やサービスといった検討対象となる領域における顧客ターゲティングに基づき、お客様ニーズを深掘りするアプローチが中心であったと感じています。複合価値の創造においては、お客様1人ひとりのライフスタイルに着眼し、例えば、一日、一週間、ひと月、一年といったお客様の生活における時間を軸とした視点を加えることで、お客様が利用されるサービスの関係性を事業やサービス横断でとらえ、カスタマージャーニーを起点とした付加価値連鎖の創造（複合価値の創出）に繋げていきたいと考えています。

お客様と共に新たな付加価値を創造していくイノベーション共創基盤とライフスタイル共創ラボの活動を通じて、これからもドコモR&Dは「お客様と世界を変えていく」というスローガンの下「新しいコミュニケーション文化の世界」の創造を目指して、挑戦し続けていきたいと考えています。

文献

- [1] ライフスタイル共創ラボ：“案件詳細.”
<https://smartcity.ad.at.nttdocomo.co.jp/project.php>